

紫友

SHIYU

同志社校友会 北海道支部機関誌 再刊第 5 号 (2016年5月)



校友会北海道支部総会の開催を祝して

同志社大学 学長 松岡 敬



同志社校友会北海道支部総会が盛大に開催されますことを、心からお慶び申しあげます。平素は、本学に対してご厚情、ご支援を賜わり、誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして厚くお礼申しあげます。

さて、この度、2020年3月末までの4年間の任期中、同志社大学長に就任いたしました。2025年の創立150周年という節目に向けたこの大切な時期に、学長職として同志社大学の歴史形成に参画できることは、喜びであるとともに、その責任の重さを厳粛に受け止めています。みなさまのご協力によりまして、この重責を果たしたいと念願しております。

今から141年前の1875年に、創立者新島襄は「智識あり品行あり、自ら立ち自ら治むるの人民、いわゆる一国の良心とも謂う可き人々」の育成を目指して、同志社英学校を設立しました。いかに学術技艺に優れていても、それだけでは人間として十分ではない、真に人間といえる人は、教育があり、知識があり、品行がある人であり、そういう人こそが一国を支える人物になりうると考えたのです。この「良心教育」を建学の精神とし、同志社は3つの教育理念を掲げています。私はこの教育理念をそれぞれ「キリスト教主義」「人を敬い愛する心」、「自由主義」は個人を大切にす心、「国際主義」は広い視野で世界を見つめ理解する心と表現しています。この理念に基

づいて、個を尊重した自由な環境で教育と研究を実践し、社会のさまざまな分野で活躍する人物を輩出しているところに、時代を超えた同志社大学の存在価値があると考えています。

そして、より個性的で特色ある私学であり続けるために、引き続き時代に即応した様々な取り組みに注力してまいる所存です。

国際主義を建学の精神としている本学にとって、グローバル化は重要な課題の一つです。文部科学省事業「Global30」および「Go Global Japan」において積み重ねてきた実績に基づき、事業内容の発展に取り組みます。

2016年4月にはアーモスト大学に学んだ新島の伝統を継承し、グローバル教育センターを開設、グローバル・リベラルアーツ副専攻を設置いたしました。また、今後国際主義をより具現化していくために、全学共通外国語教育の質を保証し、学生の外国語運用能力を向上させるといった教育のグローバル化を戦略的に取り組んでまいります。

また、今や同志社大学は14学部・16研究科を擁するまでとなり、教育と研究の領域に広がりを見せています。2013年度には今出川整備事業が完了し、新たな教学体制を展開しているところ です。2016年度には京田辺キャンパスが開校30周年を迎えます。ラーネッド記念図書館をはじめ京田辺キャンパスの学習環境の整備にも取り

組んでまいります。また、新町キャンパスの学習環境についても更なる充実に向けて検討を進めてまいります。

2025年には同志社大学は創立150周年を迎えます。それまでに優先的に取り組むべく「同志社大学ビジョン2025」を2015年度にまとめあげ、そのビジョン達成に向けての中期行動計画を策定しました。今後着手する課題の内容の精査も含め、より具体的な中期行動計画に練り直し、一つひとつ実現に向けて取り組んでまいります。

「ALL DOSHISHA」の精神、教職協働体制で躍動する同志社大学を發展させていきたいと考えています。卒業生のみならずには、飛躍・発展を続ける本学の新たな活動に、引き続きご注目とお力添えをいただきたく存じます。

最後になりましたが、本日の総会にご列席のみならず、この場を通じて相互の親睦をより一層深められますとともに、今後ますますご活躍されますことを心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。





再刊5号に寄せて

支部長 草野 賀文（1984年 法学部卒）

平成7年に初刊が発行され平成10年の第4号を以て休刊していた紫友が、再刊第5号の発刊に漕ぎ着けることが出来ました。初刊時は武谷洋三さん（当時の事務局長が殆ど一人で紙面作りに勤しんでくれており、その完成度の高さは北海道支部の誇りでした。再刊後も武谷さんの指導を仰ぎ、現在の武田泰一事務局長が原稿依頼から紙面の構成、イラスト選定・挿入まで全てを担ってくれております。

紫友はその時々支部活動を色濃く反映しており、再刊第4号では道内各クラブから原稿を頂いております。編纂者の編集意図に敬意を表するものです。再刊第5号では、道内で活躍中或いは活躍された教育関係者の皆様から原稿を頂きました。今までにはない紙面作りに新鮮な驚きを覚えております。

斯様な機関誌は全国の校友会組織に於いて数刊発刊されていることと思いません。毎年名古屋同志社人クラブ会報（現在第10号発刊）を事務局の山田靖典さんから頂いており、当会ホームページの掲示板に掲載させて頂いております。このような機関誌の相互やり取りは、全国の校友の絆を深めると同時に貴重な情報交換手段にもなりうると思います。全国的な活動の広がりをご期待しております。



「同志社ゆかりの地に集う」に参加して

直前支部長 山川 寛之（1969年 経済学部卒）

同志社創立140周年記念事業の最後を飾る同志社フェア・イン熊本に参加をさせて頂いた。

平成28年1月30日（土）、同志社の精神、実学的ルーツとも言える熊本バンド結盟140周年記念早天祈祷会が熊本市花岡山山頂の「奉教之碑」前で挙行され、クリスマスチャンでもないので祈り賛美歌を唄う自分がそこに居た。

まるで50年前の在学中のチャペルアワーにタイムスリップしたかのような懐かしい思いがして不思議な感じを覚えた。当日は、ここところ毎年雨中であつたが、4年振りと言われる晴天下、真に穏やかで、多少緊張も感じつつ厳粛な空気に包まれていた。

同志社OBが院長の九州学院女子校生が聖書朗読や賛美歌を唄う。極め付けは村田同志社大学長の「寛容と忍耐」というスピーチ。早朝しかも九州とは言え厳寒の中のお話しはスピードと歯切れの良さ、解り易さから学長の独断場。その場にピッタリの内容だった気がする。その余韻と満足感に酔っている頃には辺りもすっかり明るくなり、集った350人それぞれの顔も識別出来る様になり九州各支部から参加の支部長さんに目礼も出来、笑顔と解

放感に浸ったものであつた。

ところで50年前の大学在学中には余り気にも懸けず、勉強もしなかつた自分が卒業後半世紀を経た今、同志社ゆかりの地を巡り、母校の建学精神や校祖新島襄の思想・信条に触れ再認識をする。これは帝大出身者には絶対味わえないことなのだろう。私学同志社に学んだ、就中、校祖新島襄とその強い感化を受けた教え子達に支えられた同志社大学にご縁を頂き学んだことを感謝し誇らしく思うところである。この際良い機会なので熊本バンドの由来と彼等の「奉教の趣意書」を日本語翻訳文にて掲載するので是非その心に触れて頂きたい（次頁）。明治の気骨ある良心の充満したる先輩達に絶大なる敬意を表するものである。



キリスト教を信じる宣言文

我々が、キリスト教を学んだところ、大変教えられるところがあった。以後、これを学ばば学ぶほど喜びが得られる。そこで、このキリスト教を日本の国中に伝道し、文明を知り文化を得てほしいと考えるに到った。

しかしながら、キリスト教の深い真理を知らずして、古い伝統と習慣にしばられている人々が少なくない。我ら新しい真理を知った者として、この真理を知らない人々の現状を見るに、いたたまれないもどかしさを感じる。この際、我ら、新しい大きな使命をになう青年は、一大決心をし生命がけでキリスト教が公明正大な宗教であることを、明確にしてゆかねばならない。この決意の実行に、我々はもっとも力を尽くすつもりである。

そこで志を同じくするものが、花岡山に登り、一致協力してキリスト教の信仰を守ってゆくために、次の約束をする次第である。

- 一、キリスト教を信じる者は、お互いに兄弟としての交わりをもち、生活全般にわたって、互いに戒めあい忠告しあいながら、良い行いを実行しなければならない。
- 一、いったん、キリスト教の信仰を持ちながら、信仰にふさわしい生活ができない者は、神をあざむくことになる。また、自分自身の心をもあざむくことになる。こうした者は、必ずや神の罰を受けることを知らなければならない。
- 一、今日、我が国の多くは、キリスト教を拒否している。それ故に我らの内、たとえ一人でもキリスト教をすてる者は、世間の物笑いになるだけでなく、我らのせつかくの決意をもふみにじり、実行不可能にしてしまう。ともども、努力しようではないか。

一八七六年一月三十日 日曜日 記す

この後に次の人々の署名がある。(署名順)

宮川経輝、古莊三郎、岡田松生、林治定、不破唯次郎、由布武三郎、
大島徳四郎、蔵原惟郭、金森通倫、吉田萬熊、辻豊吉、亀山昇、海老名喜三郎(海老名弾正)、浦本武雄、大屋武雄、両角政之、野田武雄、下村孝太郎、
北野要一郎、加藤勇次郎、原井淳太、柴藤章、松尾敬吾、金子富吉、古閑義明、上原方立、*悪富猪式郎(徳富蘇峰)、森田久萬人、伊勢時雄、浮田和民、
阪井楨甫、市原盛宏、川上虎雄、鈴木萬、今村慎始

*複製の奉教趣意書には、この様な表記になっている。徳富猪^{いいちろう}一郎が本名。(多田直彦)
下線の人々は削除の印がある人。

出典:『Doshisha Spirit Week講演集 2010 秋学期』pp.69～72

発行:同志社大学キリスト教文化センター 2012年12月26日発行



同志社での出会い

酪農学園大学名誉教授・(福)神愛園理事長

太田 一男 (1959年 法学部卒)

1955年の春、入学式の前日、同志社大学の下見に出かけた。正門をくぐってすぐ、本部前の石碑の前に、何と書か

れているのかと目を凝らして見ていると、横から声がして、「この碑には、良心の全身に充滿したる丈夫の起り来たらんことをと書かれてある。これは、新島先生が、この大学をお建てになった時の「祈りの言葉」なのです」と教えてくださる方がおられた。その方は、田中さん

と云う方で、本部事務局の職員であったということを後で知るのでありますが、その時は、その声が、私の耳元で大きく響き、この学び舎には、「創立者の祈りがある」ということを知らされたのでした。

この時、私は新島先生の「建学の祈り」に胸打たれ、感動したことを今も鮮明に覚えておられるのです。県立津山高校卒の私には、新島先生の「建学の祈り」が新鮮で、感動的なものであったのです。田中さんが、そばから声をかけてくださらなかつたら、またあの短い会話をしている時、偶然にも、その場を通りかかられたのがユースティック宣教師ご夫妻でなかつたら、私の人生は全く別のものとなつていたと思われれます。

田中さんから、「同志社に来たのだから、教会に来なさい」と言われ、

ギューリック夫妻からオープンハウスのお誘いを頂いて、わたくしの同志社での生活が始まりました。

父が高校の教師をしていて、兄弟が多いという家庭の事情もあり、私は、自活することを前提に同志社の門をくぐつたという事情もあり、当時の私には、日曜の礼拝に出ることや月曜日のギューリック先生宅でのバイブルスタディーに出席することも、時間の配分の上では大変なことでしたが、同志社での生活では、なぜかこの二つの時間が最優先となり、その年の12月、私は同志社教会で、茂義太郎牧師から洗礼を受けてキリスト教徒に加えて頂きました。

受洗後は、大学2年生の夏、九州・熊本・阿蘇山麓で日本YMCAが主催する「国際学生ワークキャンプ」に参加し、世界各国から集まった学生や日本の他大学の学生達と熱くもまた濃い交流の時を与えられました。

「同志社学生キリスト者平和の会」の再建に関わり、「京都キリスト者平和の会」のメンバーにも加えて頂き、「第1回京都世界宗教者平和会議」の事務局担当(理事)など様々な役割を与えられて頂きました。

大学では、岡本清一教授のご指導を受

け、田畑忍先生や岡倉古志郎先生、岡田良夫先生(京都大学)、田畑茂二郎先生(京都大学)、恒藤恭先生(京都大学)、黒田了一先生(大阪市立大学)、篠田一人先生、和田洋一先生、笠原芳光先生、川崎洋子先生など多くの先生方に個人的ご指導を得て、豊かな学校生活を送らせて頂きました。

大学院での研究課題を「労働者自治」と云う、当時としては、極めて特異な課題に置いていましたので、先行研究が極めて少なく、ユーゴスラヴィアでの検討実例の資料入手に苦労をしていたのですが、京都での世界宗教者平和会議に出席されたマルコヴィチ書記官(チトー・ユーゴスラヴィア大統領の甥)やスモレー駐日本大使(チトー大統領の元秘書をされていた方)との出会いなども、私の大きな出会いの一つでした。そのご縁で、1974年には、ユーゴスラヴィア・ベオグラード大学へ研修に出かけることも可能となり、当時、ユーゴスラヴィアが追及していた非同盟政策や、労働者自治体制の研究にも関わる事が許されたのでした。

また、当時、ドヴロニツクのツァアファットで、毎年開かれていた「世界社会主義国際円卓会議」に研究者の一人として、数回出席させて頂き、世界各国の理論家との交流の時を得ることが出来ました。

私は、どの政党にも加わることも無く、党派性を持たず、個の人格を重んじ、自由・自立・自律・自治を重んずる民主社会の在り様を考えていましたので、ユーゴスラヴィアの社会主義の検討は実に刺激的なものでした。

また、日本国憲法の平和主義は「権力の非武装」制を規定する「権力非武装平和主義」と説く私の憲法論の立ち場からも、ユーゴスラヴィアの非同盟中立主義平和政策も、私の関心事であり、ユーゴスラヴィア研究に導かれたものでした。

田畑先生を中心とする憲法政治学研究会で、「労働者自治論」の研究発表をさせて頂いたとき、黒田了一先生が大阪から、重い風呂敷包みの中に、関係書を入れてお持ちいただいたこと、恒藤恭先生が、私一人の為に講義の時を作ってくださっていたこと、また大学院に進んだ時、岡田良夫先生が、進学祝にと、基本的文献の数々を下宿にお運びくださったことなど忘れられない大切な思い出です。

同志社時代に大山郁夫記念集会を開いたり、羽仁五郎先生の参議院議員の選挙に関わつて、直接羽仁先生とお話しさせて頂いたり、京都宗教者世界平和会議のご縁で、日本山妙法寺の藤井日達師や佐藤行通師、京都清水寺の大西良慶師、日蓮宗立本寺の細井友晉師、湯川絹代夫人、堀豊彦先生(東京大学・早稲田大学教授)、飯島宗崇先生(東洋大学教授)等など日本を代表する精神界の指導者の方々にも親しくさせて頂いた恵の時でした。

同志社に進み、キリスト者の群れに加えて頂き、「神を愛し、人を愛し、土を愛する」「三愛の精神で」「自立した自労働の自治」社会を追求しようとする酪農学園大学の教育・研究の場に、人生の場を与えられたということは、本当に幸せなことでした。



あの夏の夜の夜光虫

道新「道内文学」欄担当(元静修高校教諭)

妹尾雄太郎(1977年文学部卒)

学生時代を思い出すとき、決まって浮かんでくるのが夜の浜辺に打ち寄せられて漂う無数の夜光虫の青白い輝きである。

ぼくは1972年に文学部文化学科国文学専攻に入学した。一乗寺にあった三畳一間の下宿で暮らし始めた。その頃、国文学科には学生の自主的な文学研究組織があった。上古、中古、中世、近世、近現代、国語学、児童文学の研究グループがあり、それぞれのグループが例会と称したレポート発表と討議をほぼ週2回行っていた。

レンガ造りの建物の、今思えば歴史を刻んだ風格のある空間に常時たむろしていた。当初、中世文学研究会に所属したが、ぼくはこの学生研究グループの先輩や同級生メンバーに強烈な刺激を受けたのだ。ものの考え方や文章もそこで鍛えられた、ガリ版刷りの学生同人誌が何誌も競合して競いあっていた。鉄筆、やすり、ろう原紙、修正液、謄写版の日々。あの学生のころのアナログ時代がその後のぼくの人生の土台を形成したことは疑いない。授業はさばるにいいだけさぼったが、この研究会の例会には律儀に出席した。メンバーの溜まり場は今出川校

舎東側つきあたりの国文科の書庫があったクラーク館の8番教室や、西門向かいにあった「わびすけ」という喫茶店であった。神学部の建物の横でキャッチボールなどしていたこともある。コンパもたいがい乱痴気、狼籍、修羅、喧嘩と収拾不能な騒ぎになつて、最後はだれかの下宿に転がり込んで寝込むのであった。ぼくの下宿の部屋の前の廊下で糞をたれて寝ていた奴もいた。だれが言い出したか、飢えを体験しなければ文学というものは分からぬ、という言葉に同調して、暮れから正月三が日を断食したことがあった。実際は、ただみんな金がなかっただけではある。当時の愚行を書き出せばきりがないし、とうていここには書けないこともいっぱいある。その後、札幌で車を運転しながらの通勤路上、脈絡もなくそれらが思い出されてギャー、と何回叫んだか。井筒和幸監督の映画『パッチギ』はほぼあの時代の京都を背景としており、出町柳近くの鴨川と高野川が合流する三角のどっ

ぱりあたりで乱闘するシーンを共感的に観たが、そこで一升瓶を持って友達と飲んだくれた記憶もよみがえる。さて、研究会の話である。毎年、夏



の終わりにして映像的にしばしば現れる)を通つて、砂浜に出ると、群れ戯れて花火に興じる一群。遠くで抱き合うカップルの仄かなシルエット。急に泣き出す女の子。突然、着衣のまま海に歩き出す女の子。それを懸命に止めに行く奴。砂の上で前方転回を狂つたように繰り返す男。数年間の夏合宿の友人たちの複合映像の一部であるが、青春でありました。

その青春の乱痴気の中の波打ち際の闇に打ち寄せる潮騒の音。そしてその波の満ち引きに漂いながら仄かに光る青白い夜光虫の群れ。あの同じ時間を共有した仲間たちは、その後どんな人生の時間をくぐつたのであろうか。もうみんな還暦を越えた。おーい、あの夏の夜光虫はまだ心のどこかで光っているかい。

歌っていた友人の歌声がよみがえる。今思えば、そんな義務もないのに京都から車でやってきてぼくらと一緒に庭先で卓球に興じてくださった中世文学の里井陸郎教授には本当に感謝の気持ちがあふれることである。学生のこととて、夜になると毎夜大宴会である。昼間の論議の蒸し返し、喧嘩、馬鹿騒ぎや色恋沙汰。そして民宿から海辺への砂地の道(この道はいまだに脈絡のない夢の中の導入シー





京都市 in 北海道

小樽商科大学 副学長(大学評価・産学官連携等担当)
大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授

近藤 公彦 (1984年 商学部卒)

私は生まれも育ちも京都市(左京区)です。1984年、同志社大学商学部を卒業後、マーケティング研究者になるべく、神戸大学大学院経営学研究科に進みました。大学院博士後期課程修了後、岡山商科大学を経て、1997年に小樽商科大学に赴任しました。早いもので、北海道は20年目になります。

て憧れの地でしょう。「北海道」、「京都」と聞くと、例外なく、日本人はテンションが上がります。ただ、そのテンションの本身は、まさに対極です。北海道には雄大な自然があります。そのスケールの大きさは日本の他の地域では決して味わうことができません。一方、京都の魅力は1200年の歴史から生まれる文化と伝統でしょう。

世界遺産で言えば、北海道には大自然の「知床」があり、京都は「古都京都の文化財」として登録されているのは象徴的です。

この冊子を読まれている方は、北海道で生まれ、京都で学び、北海道にUターン、という方が多いのではないのでしょうか。北海道と京都はいろいろな点で対極にあり、比較すると、いろいろおもしろいことが見えてきます。北海道、京都はいずれも、日本人にとつ

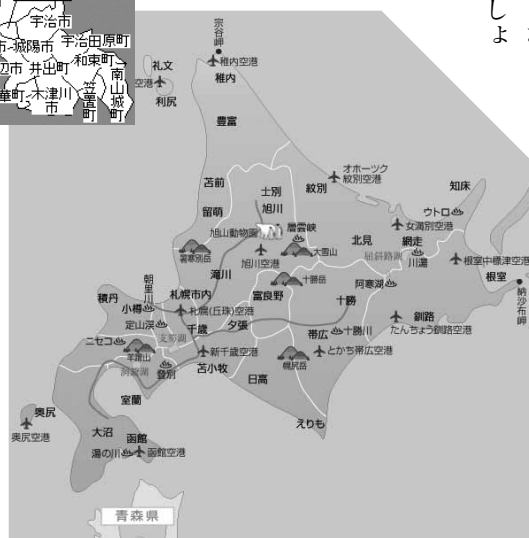
さて、このように北海道と京都が対極にあるとすると、未来に向けて目指すべき方向も違ってくるでしょう。3年前に放映されたNHK大河ドラマ「八重の桜」では、明治維新当時、「都が東京に移つても、京都はこれからどかないなるんやろ」と京都人は大変な危機感を持ったことが描かれています。その危機感をバネに、京都は疎水をつくり、水力発電を行い、市電を通し、(京都)帝国大学を誘致し、また同志社、立命館という関西私学の雄が産声を上げています。さらに今では京セラ、鳥津製作所、村田製作所、堀

場製作所、ローム、任天堂など日本を代表するハイテク企業の本拠地になっています。「伝統と革新」を追求してきたのが京都だと言えるでしょう。

翻つて、北海道はどうあるべきなのか。私は北海道の特長を最大限に生かし、競争優位をつくり出すことだと思います。京都を追いかける必要はありません。京料理の真似をしようとしても、それは無理なことですし、京都のおもてなしを取り込んで意味がありません。そうではなく、北海道ならではの自然、文化、北海道でしかできない体験、経験を「売り」にすべきでしょう。

う。京風懐石ではなく石狩鍋、お寺さん巡りではなくラフティング、昆布取り体験や搾乳体験などは、まさに「ザ・北海道」でしょう。そこそが日本の北海道、アジアの、そして世界の北海道の目指すべき未来だと思えます。

京都、道外、さらには外国も含めて、北海道以外で生活を体験した者からはよく見えてくる本当の北海道らしさがあります。「京都市 in 北海道」もそんな北海道の未来に少しでもお役に立てればと、日々、仕事をしています。





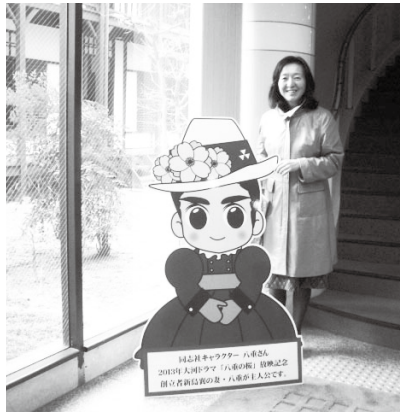
同志社の風を受けて

北星学園大学短期大学部 教授

藤原 里佐（1986年文学部卒）

私は高校までを札幌で過ごし、1982年、地方試験で同志社大学文学部社会科学科社会福祉学専攻を受験し入学しました。

社会福祉学専攻では、同志社生え抜きの先生方による、文字通り、熱い講義が展開されていました。私は後に副学長として活躍される、黒木保博先生



専門性の高い先生方と、良い仲間恵まれ、学ぶという環境に不足はなかったのですが、あまり勉強もせず、楽しい、そしてあつという間の4年間を過ごしました。在学中に保育所でのアルバイトを経験し、その仕事に魅了され、保育士資格を取得しました。卒

業後に保育士として就職し、その後、道立の養護学校教員として勤務している時に、北大の大学院に社会人として籍を置くことになりました。そのきっかけは、障害児教育の実践の場で、子どもとその家族、特にお母さんと出会ったことに依ります。

1990年代、障害児教育の制度、障害を持つ子どもへの福祉サービスは充足してきますが、子どものケアラーとして、代弁者として、あるいは権利擁護者として、母親の役割が肥大化していることを目の当たりにしました。

障害をもつ子どもの権利、QOLを保障する上では、母親の頑張りや献身性が暗黙の裡に期待され、子どもの学校教育も社会参加も、母親がコーディネートし、付き添い、母親も一人の当事者になつていくという実態がありました。障害をもつ子どものために、一生という単位で子どもの支援者として生きる母親の心身の健康、家族との関係性、きょうだいの育児などにおいて、特別な困難があるのでないかという疑問が私の研究の出発点です。養護学校のお母さんたちはいつも明るく前向きで、養育の負担感や自身の要望などを表出することが少ないだ

けに、子どもの専門家である医療、療育、教育等の専門家は、「お母さん家でも〇〇頑張つてね」と言及しがちです。〇〇は、リハビリであったり、生活動作であったり、排泄自立であったりしますが、母親が、ある時は介護士、ある時は看護師、またある時には家庭教師としての役割を果たしていることに対し、「障害児の母親である以上、それは当然である」という見方をしていることを自分自身の現場での反省も含めて、再考したいと思いまし

た。障害者家族が、地域社会で「あたりまえの生活」を営むことは、制度やサービスの発展によって可能になった面もありますが、家族に大きく依存した介護態勢や、障害者とその家族の高齢化の問題は、より深刻化しているとも言えます。私自身の将来の希望として、子どもの入所先を訪問したり、休暇と一緒に過ごすなど、家族の高齢期をサポートできる拠点を作ることに関わりたいと思っています。

私が現在勤務する学校法人「北星学園」は、中学・高校・短大・大学を有するミッションスクールであり、アメリカ人女性宣教師が札幌の地で女学校を開学して以来、130年の歴史があります。本学には、同志社とかかわりのある教職員も多く、札幌に居ながらにして同志社の風を感じることができ

る環境はとても恵まれています。昨年度、私は熊本県水俣市を訪問し、胎児性水俣病患者の方のお話を伺



水俣の海



同志社校友会を頼って

室蘭工業大学 准教授

永井 真也（1994年経済学部卒）

平成24年4月に国立大学法人室蘭工業大学に赴任して4年が過ぎました。初めての北海道暮らしにもかかわらず、人生で最も濃厚な時間を過ごさせているのは、同志社大学の同窓の皆さんの支えあつてのものです。

同志社大学では経済学部で学び、一度は地元の銀行に数年勤めましたが、新しくできた大学院総合政策科学研究科に進学し、後に大学教員になりました。前任校は生まれ育った徳島県の四国大学で、こちらもよかつたのですが、一度は国立大学でという私の想いと、北海道に行ってみたいという妻の想いがあわさつた結果、北海道に参つた次第です。



室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

大学では行政学のポストで採用となりましたが、最近では地方活性化など本

来とは異なる分野での教育の機会が増えていきます。現代民主主義論、地方自治論以外にも、小樽商科大学との連携授業として地域再生システム論、学生に身近な胆振学入門といった科目が加わっています。地域に密着した授業を展開するための地域の人脈作りは重要で、今後は校友会の皆様の協力を仰ぐ機会もあるかと思いますが、その節はよろしくお願いします。

校友会北海道支部との出会いは、赴任した最初の正月に校友会徳島県支部の先輩から年賀状をいただき、山川会長（当時）の連絡先が書いてありました。先輩から連絡するようにとあるので、素直に山川会長に連絡をして、校友会北海道支部に参加させていただくようになりました。

また苦小牧のほうでも、最初は知り合いもいなかったのですが、「苦人」という雑誌に市議の金澤俊さんが同大卒とあったのを見て、苦小牧在住の同志社大学卒なのでお会いしましょうと一方的にメールを送りました。今では気軽に話しています。いい年をうと思つておりました。苦小牧の校友会のメンバーは温かく受け入れてく

れ、定期的な交流の場で親交を深めています。この会があつて、苦小牧市と室蘭工業大学の間の結びつきもできつつあります。平成29年度の地域再生システム論は苦小牧市を舞台に開催しました。

研究のほうでも校友にお世話になつたことがあります。昨年3月末に地域活性化の調査で愛媛県今治市に調査に行きました。ゆるキャラ王者のバリイさん、B級グルメ3位の今治焼き豚卵飯、2つとも全国的に有名なマチは他にないこと、今治タオルのブランド化、日本一の今治造船、しまなみ海道のサイクリング、地域活性化のフロンティアの今治市のことを知りたかつたのですが、いきなり行つても何の収穫もありませんでした。

ところが、今治からの帰り道に徳島に立ち寄り、校友会徳島県支部の事務局長の岡南徳島市議会議員の事務所まで「サツパリあかんかった」とボヤいてみたところ、その場で校友会愛媛県支部の石川事務局長に電話を入れてくれました。そのまま愛媛県支部の事務局長から今治校友会の藤原事務局長に連絡がはいり、今治校友会で調査を応援しますとの有り難い連絡を受けました。

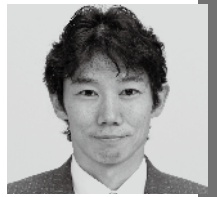
5月末に再び今治を訪れ、行きたいところはすべて阿部会長に案内していただききました。夜も7名の校友と楽しいひと時を過ごすことができました。八重の桜にも横井時雄先生（3代目

同志社社長）が布教に赴いた土地として今治が出てきますが、由緒正しき今治教会の上島牧師にもお会いして、同志社の話をしてきました。明徳館の地下食堂は美味しくなかつたという話が頭に残っていますが、たわいもない話ができるのは同窓の楽しさです。上島牧師は以前に北海道の恵庭教会にいらつしやつたそうで、北海道の話もいたしました。

その後、7月、10月と調査に訪れ、12月には今治商工会議所の会員3,050社にアンケート（回収320）を実施することができました。調査内容は、今も続いている無尽について、今治の無尽が割賦販売のルートです。調査結果のダイジェストは5月5日の愛媛新聞に掲載していただいています。5月に学会に投稿しますが、この研究は今治校友会の支え以外の何物でもありません。今治事務局長の藤原さんをはじめ多くの友人ができたことも収穫でした。

母校も遠く、実家も遠く、不慣れな北海道の地で、これからも「頼つてな

胆振学入門



株式投資で儲けることはできる？ ～ファイナンスの学び～

北海学園大学 教授

赤石 篤紀（1997年 商学部卒）

北海学園大学経営学部で「ファイナンス」と「コーポレート・ファイナンス」を担当。研究は、企業の評価を中心的なテーマとし、最近ではその対象をベンチャー企業や成長企業に狭めながら、これらの企業の資本調達行動、投資行動について考察しています。



さて、大学でファイナンスを教えているというところ、「どうやったら、株で儲かるのですか？」とよく聞かれます。素人的な疑問のようにも思われますが、なかなかどうして。ファイナンス

の領域では、「株式の価格はどのようになっているのか、どう動いていくのか」、「株式投資で、平均よりも儲けることができるのか」というテーマは、重大なテーマであり続けてきました。このテーマについては、2つの有名な仮説があり、多くの研究者によって検証されています。

1つめは効率的市場仮説。株式市場が入手可能な全ての情報を株価に反映しているという仮説です。この仮説に従うと、株価に影響を及ぼす情報は瞬時に価格に反映されるので、投資家は通常の平均的な利益しか得ることができません。つまり、株価にプラスの情報を得て、今後の値上がりを見越して株式を買おうとしても、そのときにはその情報により、株価は適正な水準まで上昇しており、（平均以上の）特別な利益を得ることはできないということになります。

多くの研究者が、これまで様々な国の、様々な市場の、様々な期間のデータをを使って、この仮説の有効性を検証してきました。一部例外はありますが、おおよそ「過去の情報、公開情報の全てが株価に織り込まれている」という帰結が得られています。つまり、

取引時点での価格が、その時点で情報を全て反映した適正な価格ということになります。

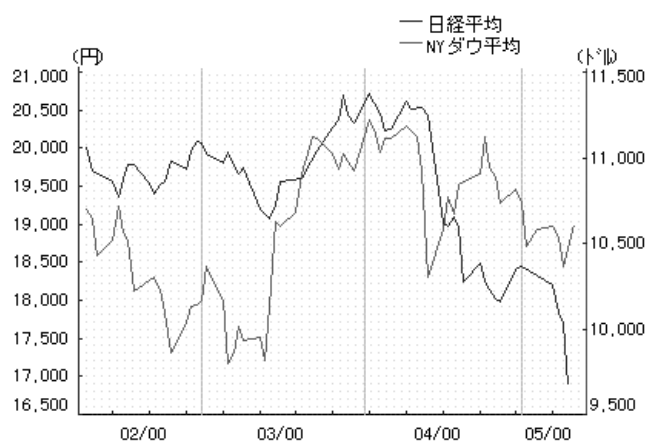
2つめはランダムウォーク仮説。ランダムウォークとは、英語で、酔っ払いの千鳥足（ちどりあし）。つまり、酩酊した人間が次に右に動くのか、左に動くのかがわからないのと同じように、次に株価が上がるのか、下がるのかは誰もわからないというものです。

先の効率的市場仮説との関連でいえば、現時点での全ての公開情報が株価に織り込まれており、次に株価がどう動くのかは、次に出てくる情報に依存することになります。そして、いかなる情報が次に出てくるのかが未知である以上、株価がどう動くかもわからないということになります。

とはいえ、効率的市場を出し抜く方法もあります。効率的市場とはいえ、非公開の、内部情報までは取引に反映するほどの力もついています。ですから、この非公開の内部情報を用いることで、確実に利益を獲得することはできます。もちろん、こうしたアンフェアな取引は、インサイダー取引として、法律で厳しく罰せられています。

結局のところ、十数年、ファイナンスについて、勉強してきましたが、「株式投資で、平均以上に儲かることはない」ことが十二分に理解できたという、何とも言えないオチを得ることとなりました。

ただ、中長期的に、様々な企業の株



式に投資をしていけば、平均的な利益は稼げるようです。社会は発展している、また社会が発展していくとするのであれば、それを下支えする企業も入れ替わりはあるものの、集合的な経済体として発展・成長していくでしょう。ですから、中長期的な、多くの企業に対する分散的な株式投資によって平均的な利益は期待できるのです。こうした当たり前のことを知るといっても、また実りのある人生を考えるような気がします。少しでも多くの果実を得るためには、粛々と投資を行う一方で、一生懸命働き、社会に適正に評価されるよう自身の腕を磨くしかないことが明らかになったのですから。

2016年度年間活動予定&報告

1月	11日	スキー部練習会 テイネハイランド 参加者11名 久しぶりのスキーに体が悲鳴
3月		旭川同窓会懇親会&新年会 札幌組送迎付きで旭川に合流検討中
	18日	弥生例会 『魚〇(うおまる)』狸小路6丁目 会費4000円 15名参加、自己紹介と熊本バンド談義
5月	21日	北海道支部総会懇親会&皐月例会 『プレミアムホテル-TSUBAKI-札幌』 校友会北海道支部は女子大や各学校を含んでおります 総会と呼ばず「懇親会」と称し 集い易い 雰囲気醸し出すようにしています
6月	14日	函館碑前祭 参加費無料 家族同伴可! 乗用車に分乗
7月	8日	釧路OB会総会
	9日	第13回同立戦ゴルフコンペ
	15日	文月例会 お刺身居酒屋『瑠玖』
	17日	“DOSHISHA Camp in Hokkaido” アウトドアコミティーが企画するキャンプです 今年羊蹄山山麓で行います
8月	8日	第17回 関西六大学札幌OBゴルフ対抗戦(リージェントゴルフクラブ) 昨年は115名参加 樹徳会主催ビール会
9月	16日	月見例会 『北の魚づくし』 9月を旧暦表記すると長月です ホテルの立て看板に「同志社長月例会」と記載したところ 同志・社長月例会と読めてしまうので改名を指示されました
	22日	三好杯争奪ゴルフコンペ 故三好支部長に敬意を表し秋にゴルフコンペを開催しております
11月	11日	関西六大学札幌OB懇親交流会 交流会は本年度の関西六大学対抗戦優勝校が幹事をします 当月は樹徳会総会 小樽クラブ総会の開催月です
	12日	同志社ホームカミングデー(京都)
	18日	十勝クラブ小樽クラブ総会&霜月例会 樹徳会北海道支部 定時総会
12月	10日	クリスマス会 第2土曜日にクリスマス会を開催しています 会員家族約120名出席の大パーティーです 瘦ッチョのサンタや太ったトナカイが狭い会場を走り回り子供達にプレゼントを配ります

<http://hokkaido.doshisha-alumni.org>

行事予定の詳細はホームページに最新情報を掲載しております、確認をお願いします。

被災地・被災者の皆様に、 心よりお見舞い申し上げます

この度4月の、「平成28年熊本地震」において、
お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、
被災者の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

被災地においては一日も早い復旧と、皆さまのご無事を、
お祈り申し上げます。

表紙写真：平成28年1月30日
熊本バンド結盟140周年記念早天祈禱祭
(熊本市花岡山山頂)